

大和町地域福祉計画推進協議会及び

大和町地域福祉活動計画策定委員会 会議録

事業名	令和4年度大和町地域福祉計画推進協議会及び大和町地域福祉活動計画策定委員会
日時	令和5年3月23日（木）14：00～16：20
場所	大和町役場3階301
報告者	大和町福祉課社会福祉係
参集者	・浅野元（町長） 【推進協議会委員、策定委員】 ・安齋由貴子, 小川実, 鈴木利一, 相澤さだ子, 下塚定子, 鈴木由子, 佐々木裕美, 堀田多美夫, 伊藤正和, 大友好弘, 樋ノ浦有子, 阿部洋子, 稲邊康宏 【庁内委員】 ・浅野喜高委員長（副町長）・千葉正義総務課長 ・菊地康弘財政課長・文屋隆義教育総務課長 ・江本篤夫まちづくり政策課長・櫻井和彦健康支援課長 ・亀谷裕都市建設課長・遠藤眞起子子育て支援課長 ・蜂谷祐士福祉課長 【事務局】 大和町福祉課社会福祉係 ・技術主任小俣友紀・及川雄基主事 【大和町社会福祉協議会】 ・千葉事務局長 計26名 欠席者2名（伊藤正和、菅原正郎）
内容 進行： 事務局	1 開会 2 委嘱状交付 3 挨拶 4 協議事項 ①大和町地域福祉計画・地域福祉活動計画の評価について ②大和町地域福祉計画・地域福祉活動計画アンケート結果について ③その他 5 閉会
進行： 蜂谷委員 （福祉課長）	1. 開会 2. 委嘱状の交付 小川実委員、下塚定子委員、樋ノ浦有子委員。 代表小川実委員へ交付する。大和町社会福祉協議会長からの委嘱状は事前に交付済み。 交付日：令和5年2月1日 任期：令和5年9月30日まで（前任者の残り期間） 3. 挨拶（町長挨拶） 皆さんお集まり大変ありがとうございます。今日は大和町地域福祉計画推進協議会として、皆様にご案内差し上げました。皆様方には、お忙しいところ、そして年度末、お集まりいただいたことに御礼申し上げますし、この協議会、策定委員会に際し、あるいは、町の様々な事業に際し、様々なお立場でご尽力いただいておりますことに、改めて御礼申し上げます。令和4年度3
町長	

安 齋 会 長	月もまもなく終わりますが、今年度もコロナの影響などで、なかなか制約の多い中での活動となり、ご不便をおかけしたと思います。3 月半ばからは独自の判断でのコロナ対策となり、環境が少しずつ変わってきている状況です。数年自粛していたまほろば夏祭りなどもご協力いただきながら開催することができました。少しずつ普通の体制へと移行しながらも、コロナがなくなるわけではありませんので、しっかり注意を行いながら進めて参ります。本日は 4 年度それぞれの立場についてご意見いただき、来年度に向けた検証を目指しております。新年度なおよい活動ができますように、よろしくお願い申し上げます。 (安齋会長挨拶) 皆様 1 年前の 3 月 23 日にこの会が行われておりました。また皆様と様々な面から議論検討して参りたいと思います。なお、今年から委員になられました方につきましては、私宮城大学の安齋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。この地域福祉計画と地域福祉活動計画では、なんらかの形でこの計画の実現に向けてお役に立ちたいと思い、策定時から会長役をお引き受けしております。 この 1 年を振り返りますと、昨年 3 月 16 日の地震後には、宮城大学の教室が使えないなど新学期にあたる時期に起こった様々な出来事を思い出しております。また、コロナについては、夏や 12 月頃に多数の方が陽性となり、皆様も様々な対応が求められました。一方で、対策をしながら、日常生活を戻すための対応も求められてきました。また with コロナやポストコロナ社会と言われ、私たちができることはないか、ということを考える 1 年だったとも思います。先程町長よりお話がありましたように、4 月にはいろいろと環境が変わる時期となり、それぞれのお立場でお考えになることも多数あると思います。新しい社会に向けて、地域共生社会を目指して、お互いがどのような助け合いをしながら取り組みすればよいのかについて、今日は議論をし、皆さまと検討して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。
議 事 進 行 安 齋 会 長 事務局	4. 協 議 町長退席 (副会長の選任について) 副会長澁谷委員退任につき、本協議会要綱第 5 条『協議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選により選出する』により、互選により選任することに基づき行う。 前澁谷委員の後任に、大和町区長会より小川委員への推薦をうけ、全員意義なし、承認される。 副会長並びに副委員長：小川実委員。 任 期：令和 5 年 9 月 3 0 日まで（前任者の残り期間） 会議は、大和町地域福祉計画推進協議会設置要綱第 6 条「協議会は、会長が招集し、その議長となる」により、安齋会長が議長を行い、進行する。 [評価シートの説明] 今年度の評価シートの作成したポイントは 2 点です。第 1 に、町と社会福祉協議会一体的に進めた地域福祉計画、地域福祉活動計画であることから、評価シートも計画の施策ごとにわけて、町と社会福祉協議会の事業を共に記しました。第 2 に、昨年度の地域福祉計画推進協議会にてご指摘いただいた事項 2 点をふまえました。指摘事項 1 点は、各事業の自己評価を、ABC の段階評価にすること、指摘事項 2 点めは、自己評価にて達成できたこと、達成できなかったこと、そのためにどう対応していくかを示すことでした。これにより今年度の事業評価では、各事業の地域福祉の取組が「よくできた」場合を A、「出来た」場合を B、「出来なかった」場合を C として、自己評価を記しました。令和 4 年度実施状況の欄に、達成できたか、出来なかったかを記載し、課題・問題、今後の取組の欄に、今後の対応をお示ししました。事業令和 4 年度評価対象期間は令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 1 月 31 日となります。

庁内委員 社会福祉協議会 千葉事務局長	①大和町地域福祉計画・大和町地域福祉活動計画評価について 〔地域福祉計画について〕 庁内委員より事業取組報告と次年度の方向性の説明を実施する。(参照：評価シート) 〔地域福祉活動計画について〕 本来ならば、ボランティア団体や民生委員・児童委員などの皆様方のご意見を踏まえたうえでの評価がふさわしいところですが、今年度も社協の自己評価となっております。課題も社協の判断で記載いたしました。 (参照：評価シート) 以上全体を通して、コロナ感染防止を講じて事業を実施しましたが、なかなか実施できない部分もあり、事業評価がCとなった事業もあります。次年度に向けた課題と取り組みでは、新型コロナウイルス感染症対策緩和が生じる場所ですので、今後も引き続き感染対策を講じながら、町からの委託事業である配食サービス事業や、地域福祉活動センターとの事業を引き続き実施するほか、ボランティアの育成推進を図るため、初心者向け研修の実施、交流機会の創設と、社協としての重要なボランティアの育成と強化に向けて事業を進めることとします。また、コロナの影響で地域での助け合いやつながりの希薄化が懸念されることから、地域で実施しています各種事業の啓発活動に取り組むほか、生活困窮者に対するミニフードバンクの取り組みなどを進めたいと考えています。
安齋会長 棚ぎょうせい 澤村主任研究員	②アンケート結果について 今年度地域福祉計画の中間見直しのため、アンケート調査を致しました。分析報告書より特徴的な内容に絞ってご報告します。目次に「Ⅰ前回調査からの推移」、「Ⅲ成果目標の中間検証」を中心にお話します。 2ページ「調査の概要」では、「調査対象」「調査期間」は記載のとおりです。「調査方法」は、前回調査時は郵送に要る配布回収でしたが、今回はwebによる調査を加えました。回収状況は、1,997票配布し、692票回収し、回収率34.7%となり、前回回収率39.4%より下がっています。回収率が下がった要因として考えられる点は、前回の調査よりいくつか設問を増やしたことで、ページ数が増え、回答者の負担が大きくなったためと考えます。今後は、回答者の負担を考慮する必要があります。 1ページ問7あなたが考える「地域」の範囲を教えてください、についてです。地域を隣近所と考える方は9.6%から6.6%、3.0%減少しています。大和町全体を地域として考えている方が大きく増えており、地域の捉える認識が変化しています。4ページ問11にて1を選択した方に、「あなたは隣近所の方から不安や相談を受けたことがありますか」について、「ある」と回答した方のみ尋ねました。「相談を受けた後、誰に相談しましたか」という相談歴を伺いました。一番多い相談者は、家族・親族、2番目は知人・友人と答える方が割合的に下がっています。反対に、役場の窓口やその職員、地域包括支援センター職員など、公的な機関への相談をする人が増えています。困りごとがあった時に、「どこに相談すればよいか分からない」「誰かに相談したいとは思わない」という回答が大きく減りました。困ったことを自分で抱え込んでしまう方が減っており、良い傾向と言えます。 6ページ「ボランティアへの参加状況」について、「どんな活動に参加していますか」などボランティアの参加経験があるのかを訪ねました。割合が一番多いのは、行政区、町内会ですが、前回76.9%から69.0%となり、7.9ポイント下がっています。ほかにも、スポーツ、趣味団体サークルが下がっています。増えているものは、PTAが8.6%から11.6%、老人クラブが9.9%から16.8%、ボランティアや有志グループが13.6%から16.6%となっています。地域での活動内容が少しずつ変わっている傾向がみられます。問14の⑤「参加しない」回答では、「参加しない理由はなんですか」と尋ねました。割合として一番多いのが、「仕事などで参加する機会がない」との回答が、前回も今回も40%以上占めています。今回大きく伸びたものは、「どのような行事や活動があるのかわからない」15.1%です。ほかには、「参加方法は分からない」です。

	今回追加した設問への回答の高さから、「いつどこで参加しているか分からない」33.8%、「どのような行事があるのか分からない」「参加方法が分からない」があり。地域の活動が皆さんに知られていないと感じられます。さらに、「興味が無い」割合が28.4%から20.7ポイントと大きく下がりました。今後も続けば良い傾向になると思います。それでも2割の方が地域の活動に興味が無いと伺え、その方々に対し、どう興味を持ってもらうかが必要だと思います。 10 ページ「あなたの住んでいる地域にはどのような問題があると感じますか」の設問です。前回調査で高かったものは、「対応体制が分からない」でした。今回は、「安心できる子どもの遊び場が少ない」が、前回17.5%から24.5へ伸び、子育て世帯の回答での高い関心がみられました。更に「地域活動が活発でない」は8.4%から13.2%4.8%上昇しています。今回新型コロナウイルス感染症の影響がありましたので、選択肢に「新型コロナウイルス感染症の予防のため制限されている」を加えました。回答では最も高い26.9%、4人に一人の方が選択しています。今後行動制限が解除されれば意識が変わるのではと考えています。 13 ページ問24「あなたは生活困窮者を地域で支えることが必要と感じますか」にて、「とても必要だと思う」と「必要だと思う」の合計が64.6%で、前回56.5%と比較すると、関心が高いことが分かります。「必要だと思わない」「あまり必要だと思わない」が下がっていますので、地域で生活困窮者を支える意識は高くなっていると考えます。17 ページ「あなたは和町の情報をどんなところから入手していますか」の設問にて、どこから情報を仕入れているのかと尋ねました。1番多い割合は、「町広報誌」56.2%から45.2%です。ただ今回は「和町社会福祉協議会だより」「地区回覧板」などの選択肢を増やしました。社会福祉協議会だより94.8%、地区回覧板は7.9%と高い割合を示しています。町広報誌とあわせて、紙媒体による情報収集が多いと感じます。あわせて、「町ホームページ」から情報を得る方は、0.1%から5.5%と増えており、紙による情報発信と、ホームページ上での情報発信とともに同時進行で進め、より多くの情報を発信することが大事だと感じます。 18 ページは、町民の方の参加状況です。福祉活動に参加していただくことで、町民の方にどれだけ関心を持ってもらえるか、参加しやすい機会となっているのか、と今後の課題の部分です。19 ページ問40の社会福祉協議会が行う活動や支援について、「今後期待することはどうですか」の質問です。前回調査の割合で1番多かった「災害時による支援」は、前回33.8%が36.8%と更に関心が高くなりました。もう一つ関心が高い設問は、「生活困窮者支援」です。新型コロナの関連から、経済活動が厳しく、保育者の関心が高くなっています。ここまで前回との比較、調査をご説明いたしました。21 ページからは、その他の傾向分析です。 32 ページ「成果目標の中間検証」では、計画に示された成果目標のうち、アンケート調査に基づく中間検証です。11項目のうち目標値に向けて前進している項目は6項目、後退している項目5項目あります。前進している項目のうち、中間値が目標値の半分を超えた項目では、「和町社会福祉協議会を知っていると町民の割合」13.8%から19.8%6.0ポイント上昇しました。生活困窮者を地域で支えることが必要と感じる町民の割合は56.5%から64.6%、8.1ポイント上昇しました。「地域の自主的な助け合い、支え合いの関係が必要だと思う町民の割合」は前回86.9%から84.8%となり、2.1ポイント下がりました。このように下がっている項目が、今後増えるために、住民へどう認識していくかが必要と考えます。 34 ページ(3)「健康づくりと生きがいづくり」の項目にて、成果目標は、「地域の行事と活動に参加する町民の割合」では、前回34.4%は、「必ず参加する」「ほぼ参加する」「たまに参加する」を34.4%と設定しますが、今回のアンケート調査では「たまに参加する」抜きましましたので、4.3%下がっています。 ご意見、ご質問を、委員の皆様から一言ずつお願いします。
安 齋 会 長	
鈴木利一委員	民生委員の鈴木です。12 ページ県社協申請手続き返還の説明ありました。民生委員の方々より聞くとところでは、非課税の方が免除になっていますが、返済が始まり、返済についていくつか相談を受けているとの情報でした。困っている方々が、借入の返済で露頭に迷うことのないように、社協や関係機関総出で、返済関係、計画等丁寧に説明して、安心して暮らせる対策をお願いします。評価はBですので、この部分を重視していただければ幸いです。もう一点、3 ページ除雪ボランティア実施の部分です。各地区で高齢者の方が、除雪で困っていた際、ある

社 会 福 祉 協 議 会 千葉事務局長	地域の方と区長さんや隣組の方々が助け合って、高齢者の方々の雪かきをして、大変助かったということ聞き、大変いいことだと思いました。ここでは評価 C となっています。大和町内の地域でみんなが支え合って、広げていけば、A とか B とかになると思いますので、今後推進していただければ、もっと評価が上がるのではないかと思います。 それでは鈴木委員のご意見に対し、ご説明致します。まず資金貸付の部分です。この事業は県社会福祉協議会の事業であり、町の社会福祉協議会は、必要な申請書類等を受付し、県社会福祉協議会へ進達するものでありました。貸付の有無は県社会福祉協議会が決定したものであり、貸付を受けられた方は据え置き期間が満了しました今年の 1 月から償還が開始されました。免除を受けられる方は、令和 4 年度の住民税が非課税であれば基本的には借入した全額が免除されることになります。非課税の対象とならない方については、その生活状況や様々な事情を考慮し今後の返済に係る対応となるものであります。令和 5 年度より、貸付資金の管理業務が県社会福祉協議会より町社会福祉協議会への委託業務となります。ご指摘にあった資金融資を受けられた方々の対応については、県社会福祉協議会と連携を取りながら対応して参ります。 もう一点、除雪については、評価 C と致しましたのは、令和 4 年度では社会福祉協議会へ除雪の要請がないことを評価に反映しましたところです。令和 4 年度は、各地区にお願いし、地区内で除雪に困っている方々の把握に努めたところでしたが、対象者がなく、C 評価となっております。参考までに、令和 3 年度は、吉田沢渡地区区長より、高齢者世帯に方が、自分たちで除雪するのが大変だという声を受けて、郵便局のボランティアネットワークよりご協力いただき、令和 3 年度に 2 件の実績がありました。この事業は今後も取り組んでいきたいと考えております。
安 齋 会 長	大切なことと思います。
下 塚 委 員	ボランティア友の会の下塚です。アンケート結果についてです。普通の方ですと、地域のイベントに出てくるのですが、結局この 3 年間は、コロナの影響でいろんなイベントができないために、年齢の高い方々が特に、内にこもったきりで話も出来ないという方が多かったのです。この 3 年間は結構長い時間でした。広報や社協だよりもに掲載されていると思いますが、あまり目を通さない人もいると思います。令和 5 年度からはコロナも少し落ち着き、おまつりなどもでき、隣近所の集まりもできると思います。皆様にも声をかけて頂きながら、集まる中で、支え合いの仕組みへとつながっていければよいと思いました。
安 齋 会 長	これから積極的に声掛けができる時代が来ると思います。
佐々木委員	子育て支援の活動をしています佐々木と申します。評価シートは、実施状況、課題問題取り組みが分かりやすく書いてあり、大変読みやすく、よかったですと思います。また、アンケートの調査について、この調査の対象は何歳でしょうか。また、内容がすごく盛りだくさんでしたので、回答した年代によっても、回答がなかなか難しかったのではないのかと感じました。
安 齋 会 長	年齢だけでも教えて頂くとよいと思います。
俣ぎょうせい 澤村主任研究員	配布した年齢は、分析報告書に記載した「調査の概要」をご覧ください。調査対象は、町内居住の 18 歳以上の方です。参考までに、10 代 20 代の方に答えて頂いた数は 32、若い方は紙媒体より WEB での回答が多いと期待しましたが、思ったほど伸びませんでした。40 代以上 70 代前半の方が回答としては多い傾向です。
樋 ノ 浦 委 員	ハローワーク大和の樋ノ浦と申します。アンケート分析報告 2 ページ「仕事に関する不安や悩み」については、前回よりも減っていますが、「生活費や経済的な悩み」は少し上がっています。コロナウイルス感染症拡大や物価高の影響で、生活も大変になっていると思いますが、一方で仕事に関する部分は下がっています。生活が困窮し始めたら、キャリアアップしてもっと別の仕事をみつけようなどという意欲があまり沸いていないと感じまして、ハローワークとし

	てはショックに思いました。そして、ハローワークももう少し頑張らないといけないところです。コロナで各企業訪問が出来ませんでしたが、今年の1月以降は、企業訪問頻度を増やしていますので、各事業所様から求人をいただき、積極的に行ってまいります。それから、本社が他県にある大企業事業者様からの求人は少ない現状もあり、地元の中小企業様への理解を求めて、進めていきたいところです。
相 澤 委 員	吉田地区の健康づくり運動や防災活動に取り組んでいます相沢と申します、評価シートを拝見し、普段のお仕事、お疲れ様でした。アンケート調査結果は、分析報告書のポイントが下がっているところが上がっていくよう、そのためにどうすればよいかは、なかなか難しいと思っています。危機管理についてです。各区長や各支部に賞味期限の迫った非常食などどのような方法で配布していますか。
安 齋 会 長	非常食の管理のことについてでしょうか。
蜂 谷 委 員 (福祉課長)	総務課長が席を外しておりますので、後程ご回答致します。
鈴 木 委 員	子ども子育て会議の鈴木と申します。地域福祉と一言にいてもこれほど多くの担当課が関わり、たくさんの支援があること、本当にありがたいと思います。5ページ「切れ目ない支援体制の構築」において健康支援課が妊娠から出産、乳幼児まで支援し、その後子育て支援課にて児童を見守ってくれるような体制は、本当に頼もしく思います。最近話題のヤングケアラーについてです。自分で親の世話をするとすれば、中高生が対象と思いますが、自分から「親の世話をしている」とはなかなかいえない中で、その子の人生はどうなるのかな心配になります。対象者を見つけることも大変と思いますが、町ではどんな体制になっていますか。
遠 藤 委 員 (子育て支援課長)	子育て支援課の遠藤と申します。ヤングケアラーについては国の方でも動いており、令和5年4月から子ども家庭庁が設置されます。ヤングケアラーについては子育て部門として子ども家庭庁に移管されます。町でもアンケートの調査などは本格的に取り組んでいかなければならないと感じております。まず調査対象を、学校を通すなど、今から横の連携を取りつつ、本格的に動いて参るところです。
鈴 木 委 員	よろしくお願いいたします。
大 友 委 員	永楽会の大友と申します。障害者への理解と配慮の促進の部分でC評価が多かったと思いました。障害者差別解消法や合理的配慮など、なかなか浸透が難しいところです。障害者の方が近くにいなかったり、関心がなかったりすると町民にも分からないと思います。アンケートからみますと、町の広報誌をご覧になる方が結構多いと感じましたので、行政から制度理解への働きかけをしていただき、地域共生社会への実現に向けて、障がい者が住みやすい環境へとなお一層進むと思います。よろしくお願いいたします。
安 齋 会 長	これからなおPR活動が必要になってくると思います。
阿 部 委 員	宮城県社会福祉課の阿部と申します。評価シートの全体的な感想をお話させていただきます。まずコロナ禍の中でイベントなど思うように実施できない中で、役場も町社会福祉協議会も工夫しながら事業を進められたと感じます。評価はBやCのところでも、おそらく役場庁舎内や社会福祉協議会とも連携し、何かあった時の体制整備など常日頃されていると思います。体制整備という目標に向かっている一つの成果だったと思います。具体的内容を言及したところは少なかったと思いますので、記載していただければ、もう少し評価も上がると感じました。例えば、民児協や役場にて作成した見守りマップは、大変素晴らしいと思います。今後は見守りマップをどう活用したのか、地域の人が集まりあーでもない、こうでもないと話したことなども地域共生社会のひとつだと思いますので、その視点も盛り込んで評価されればよいと思います。

安 齋 会 長	私もBでもいいと思いましたが、評価は「よくできた」「できた」となっています。皆さん遠慮されたと思います。計画通り実施したものは、今後Aでよいと思いました。
稲 邊 委 員	宮城県社会福祉協議会の稲邊と申します。県社協では、町社会福祉協議会の活動を通じて地域の福祉を向上させるようバックアップする位置づけです。県社会福祉協議会で実施する生活福祉資金は、コロナ禍での特例です。本来の貸付では、民生委員の面談にて意見を頂き、判断します。今回は緊急措置のため民生委員の意見書はなく、貸付を行う状況から、町社会福祉協議会ではなかなか関わらない中で、緊急的に書類上での措置を行うことを政府からも求められていました。いち早く総合支援資金や緊急小口資金などが困窮している方に行き届くように、素早い措置を目指し、簡素化したために、相談がおぼつかないということが多々あるようです。その部分については、県社会福祉協議会に直接ご連絡いただき、返済できない理由を伺い、例えば5,000円ずつ月々の返済を、1,000円ずつ返すなど検討させていただいています。他のさまざまな部分について、ご意見要望を大和町社会福祉協議会へお話しいただければなと思います。
安 齋 会 長	貴重な情報ありがとうございます。分かりやすくまとめて頂いたと思いますが、私からも1点、残念に感じたところがあります。アンケート分析報告書17ページの情報源の部分です。設問の選択肢が一つのみ回答となっていました。日常的に見る機会のある広報誌の割合が高く出ますけれど、なかには、ホームページも見ているや、社協だよりも見ているなど、複数ご覧になっていると思います。自分たちが作ったものがどれだけの人に見られるのかという意味では、複数回答の方がよかったと思いました。大学の立場として、この多い少ないとは結構難しくて、今検定など利用しますと簡単に多い少ないが出ますので、検定されると優位と分かるので、多い少ないが強く言えるのかなと思います。参考になればと思います。 ほかに何かありましたら、福祉課へ質問して頂けますようお願いいたします。次の計画へと繋がればよいと思います。 令和5年度は、地域福祉計画及び活動計画の中間評価や改訂を行う中で、協議会の開催を数回行って参りますので、各委員のご協力をお願いします。
事務局	③その他 広報たいわ3月号にて住民アンケートの結果を住民に広く知っていただく目的で紹介した記事になります。
蜂 谷 委 員 (福祉課長)	皆様ご審議いただき大変ありがとうございます。今日の結果を事務局でまとめ、今後の推進に役立てて参ります。また、本委員会の全体評価結果は、地域福祉の住民参加の観点からホームページへ公表致します。ご了承願います。
小 川 副 会 長	5. 閉会の挨拶 本日は年度末の忙しい中、ご出席賜りありがとうございます。いろいろご説明ありました。本当に事細かく実施状況や評価をしていただき、本当にご苦勞様でした。C評価、B評価ありましたが、B評価がA評価へとなる部分であると私も感じております。今後はコロナも落ち着いて、事業もだんだん多く実施できるようになると思いますので、基本的な感染対策を講じながら、事業に取り組んでいただきたいと思います。5年度は協議会を、複数回開催することですので、今後とも委員の皆様にはよろしくお願い申し上げます。今日はどうもありがとうございました。